

# 夢追い人

## 木のある生活を選んでもらいたい

今月の夢追い人は、株式会社 佐藤木材の佐藤さんにお話を伺いました。

### 世界各国の木材

佐藤木材は、今年創業五十年を迎える木材販売会社です。「同じ木材を使って製造しているけど家具と建具では異なるように、木材販売を行っている会社でも様々な種類がある



オーダー商品サイズにカットする様子

### 株式会社 佐藤木材

代表取締役社長 佐藤 元昭 さん

ります。丸太を購入して製材するものがメインのところや、合板やベニヤなどの木質系の販売をするところ。うちの場合は、丸太ではありませんがそれを少し加工したものの取り扱いがメインになりますね」佐藤さんが代表になられたから今年で十五年を迎えられるとのこと。幼い頃から会社を継ぐことを考えていたのでしようか。

「幼い頃から木材と近い生活を送るなか、中学二年生のときには漠然と会社を継ぐと決めていました。進学して、東京で木材の勉強をしてから大川には戻りましたね。帰ってきた当時は、パブルが弾けていたものの、大川はまだ全盛期でした。木材の種類も商品も様々な種類が流通していましたが、それに伴って業者、商社の出入りもすごく多かつたです」

そんななかで商売をされていきましたが、景気が低迷していくにつれて、だんだん木材を扱う商社の出入りも減ってきたそうです。「購入されるポリウムが少なくなってくると、商売的なメリットを考えた場合、ここで商売するのは難しいと思われるので、どんどん商社の物量が少なくなっていきました。これじゃあまずいと思って、そこから自分自身も海外へ行くようになりました」

現在は海外との取引も多い佐藤木材。どのような国と地域から木材を手に入れられているのでしょうか。「今はアメリカ、カナダ、中国、ベトナム、ヨーロッパなど、様々な国や地域から輸入しています。現状だと海外でしか手に入らない木材も多いので、





様々な種類・大きさの木材



木の種類によって表情の違うフローリング

海外まで足を運ぶことも多いです。またそれがこの仕事をしていたてよかつたなと思うものひとつでもありますね。それからヨーロッパの展示会にも足を運ぶのですが、インテリアや家具の展示会の中では一番だと思えます。流行の発信地でもありますので、どういう風に木材が使われているのかなど、木材の勉強にも情報収集にも繋がりますし、実際に足を運んで色々な感性を培っています」

### まずは知ってもらうこと

佐藤木材が取り扱っている木材には、針葉樹のものと広葉樹のものがあります。杉や檜といった針葉樹は日本国内でも比較的手に入りやすいものですが、「家具など人が直接触れるもの、見るものなどは、これまでもこれからも広葉樹の木材が多く使われるだろう」とお話されました。「針葉樹と広葉樹を比べた場合、針葉樹は木目などが似たものが多いですが、広葉樹の場合は様々な色や木目などがあります。せつかくなら自分好みの環境のなかで生活したいと思えます。だからこそ色々な種類の中から選んでもらったほうが良いと思えますし、バラエティに富んだものが目に触れる部分には適しているとも考えています」木の種類が違えば、硬さや見た目も違うため、メリット・

デメリットをしっかりと理解し、使う用途によって選ばなくてはいけないとのこと。

「その手助けをするのも我々の仕事のひとつです。特に最近では木の価値が見直されつつあります。国産材ということでも国も推していますしね。より身近なものになればと思います」

生活に密着している木ですが、佐藤さんは危惧されていることがあるとのこと。

「私自身がものすごく危惧しているのは、現代人の生活が合理化されていくなかで、木材がだんだんと消えていく環境が結構あります。木だと思っていたものが、本当はそうではなかったということもありそうです。そういったなかで、我々のような木材に密着した人間が木材の良さを伝えて、生活の中に木材を残していかななくてはならないと考えています。そうしていくことが我々の使命でもあるし、うちの会社が生きたいことでもありませんからね。もちろん木じゃない素材のものもいろいろあります。両者のメリット・デメリットをしっかりと理解して頂いて、エンドユーザーの方に選んでもらえるようにする。まずはその選択ししてもらいたいですね」

また佐藤木材では、FSC® CoC 認証※を取得しています。二〇一六年一月一二日より取得され、環境保全に配慮

した適切な森林管理のもと出荷された事が証明される事業に取り組まれています。

「無計画な植林や伐採は、森や山の自然環境を破壊することに直結します。そうならないために計画的に木々を育て、適切な時期に伐採することで、森や山の自然環境にとっても豊かなサイクルを形成します。このサイクルを無視した伐採の映像などが印象強く残ってしましますが、佐藤木材は、きちんと管理された森林から伐採された木材を使用し、人にも環境にも優しい暮らして行っています」

これからの時代は木だけでなく、木プラスαを提案していくことが大事になってくるとお話された佐藤さん。

### “木”だけではない 木の魅力

「素材を活かしたデザインなど、これからはより受け入れてもらえやすい木の良さを提案していきたいです。なによりもエンドユーザーの方たちに木の素材が受け入れられないような時代になるのが一番怖いんです。日本は木の文化でもあります。日本人としてこれからもしっかりと木の良さを認識し、人々に木の価値を認めて頂けるような提案をしていきたいですね。国産材・輸入材に拘らず、木材の良さを見

直して、もつと使ってもらえる環境になればいいなと思っています」

またこれからは色々な人、色々な会社とタッグを組んでアプローチしていかないといけないとお話されました。「我々のような零細企業では、一社単位で出来ることは限られてきます。だからこそ地元の方などと組んで、木材の良さも含めて、地域の良さを伝えていきたいです。商いをさせてもらっている以上、良いものを取り扱っているという自負はあります。出来上がった製品は国内に限らず、たくさんの方に必ず認めてもらえ

ると思っています」木の良さを伝えていきたい、認めてもらいたいとお話される佐藤さん。そんな佐藤さんの夢はなんでしょう。

「経営者としては、社員が長く勤めたいと思う会社、働きやすい会社であってほしいなと思っています。そういった意味では、まだまだ改善したいといけない部分がありますね。伝わっているかどうかは別として、社員のための会社だと思っと思っています。木材に携わる人間としては、やはり一人でも多くの人に木のある環境に住んでもらえるような、商いだけではないアプローチをやっていかなくてはいいかなという義務と目標と夢が重なり合っています。木のある生活を選んでもらえるよう、努力していきたいですね」

※Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) による 認証製品を取り扱う加工業者や流通業者に与えられる CoC 認証